

全日本私塾教育ネットワーク

## 私塾ネット広報

<http://www.shijuku.net>

本部事務局

〒182-0022  
東京都調布市国領町5-49-1 調布学園内  
TEL 0424-82-1481 FAX 0424-83-1618  
理事長 山口 恒弘

No. 1  
平成13年8月7日  
発行  
私塾ネットワーク広報部  
〒116-0001  
荒川区町屋4-2-17  
TEL 03-3895-5811  
FAX 03-3895-5825

# 新生『私塾ネット』起動開始

## 設立総会・記念式典・懇親会開催される。

平成13年6月3日 於 品川プリンスホテル

広報部 加藤 実 報告



山口恒弘理事長を中心に握手をする各エリア代表。左から谷村志厚（関東）、湯口兼司（四国）、北川健治（中国）、山口恒弘理事長、玉寄長栄（近畿）、松本紀行（中部）、関志郎（東北）の各先生方

平成13年6月3日、品川プリンスホテル15階「京都」において、午後2時より「全日本私塾教育ネットワーク」(略称『私塾ネット』)の設立総会が行われた。

司会者は広島「教育集団学習共同体」河浜一也先生。  
**河浜先生** 只今より、『私塾ネット』の設立総会を開催致します。まず、設立準備委員を代表致しまして東京杉並「桜学習会」安藤進理先生に設立の経緯をお話戴きたいと思います。安藤先生、お願いします。

**安藤先生** 只今、ご紹介戴きました安藤です。足掛け3年、丸2年の歳月をかけて検討して参りました。それぞれ個性的な3つの任

意団体と一緒にやつていけるんだろうかという不安が多々ありましたが、集まってくる委員の熱心な言動をみると、皆真摯な方々であると感心し、また、感謝もしております。これからの方針につきましても充分に審議して参りました。これから滞りなくやっていきたい。

文部科学省は教科内容をどんどん削減しております。子どもたちに大きな夢を与えることが教育の使命であると考えます。人間教育にとって大切な「心」を大切にしっかり教育していきたい。これから有意義な総会をやって欲しい。

(司会者の河浜先生が「A I M学習セミナー」谷村志厚先生を議長に推薦、了承された)

**谷村先生** 先週の金曜日に千葉の協同組合の総会があり、総会続きですが、ネットは任意団体で法的な縛りではなく、したがって肩肘を張らずにスマートにやっていきたい。さて、会員資格についてですが、発足時の会員142名、本日の出席53名、委任状51通、合計104名。よって本総会が成立したことをご報告申し上げます。

それでは規約の内容説明を田中先生にして戴き、皆様の御承認を受けなければなりません。田中先生、お願いします。

**田中先生** 田中でございます。まず、名称ですが略称『私塾ネット』で、「会の目的」は第4条(本文については規約の方をご覧ください)に書いてあります。一言で言えば「塾のための会」だということです。「人の和」を広げていこうというものです。若いスタッフも増えました。これからおもしろい活動が出来るのではないかと思っています。

第5条の(5)は行政機関との連絡調整および提言についてです。第6条の(2)の賛助会員は私学と企業がその対象となります。第13条、センターは各エリアを結ぶ役目、サポートセンターのような仕事をするだけで、実際の活動は各エリアで行うものとします。

役員を若干名としていますのはこれからの活動を見定めた上で決定していくことです。これからはどんどんインターネットを活用していくことで、ネットの繋がっていない塾に対しては同時配信FAXを利用していく。ですからネット整備が非常に重要な仕事になってくるわけです。また、本日以外、総会というものはなくなります。今後は「代表者会議」が意志決定機関になります。

「私塾ネットエリア規定」に関してですが、これは雛形であって、あとは各エリアの実情に即して作って戴きたい。

(拍手多数で承認。次に「調布学園」の佐藤勇治先生が役員候補、13年度事業計画案等について説明)



設立総会で司会をされる河浜先生

**佐藤先生** 佐藤です。本日、会員名簿が配布されてないと思われている先生方がいらっしゃるかもしれませんがあなたがお手元にございます「教育ネット要覧」の19頁から27頁までに会員名が掲載しております。会員数は142名でその他に14名の名誉会員があります、合計156名でのスタートでございます。

また、「設立総会資料」の7頁に「私塾ネットセンター役員候補者一覧」が掲載されておりますのでそちらをご覧ください。

「候補者」ということでございますが、2年間の検討委員会の活動および委員を信用して戴きまして、御承認戴ければ幸いなのですが。(拍手で承認)

ありがとうございました。これで来年の3月までの役員が決定致しました。次に「平成13年度事業計画案」ですが、資料の8頁と9頁にありますので、ご覧ください。事務局は私、佐藤と谷村先生とのコンビでやります。またネット関係は梶原先生・谷村先生・田中先生・河浜先生・関先生・仲野先生と強力な布陣です。パソコン教育推進協会のメンバーでもあります碇先生(理事長)・平林先生(事務局長)もいらっしゃいます。ご期待ください。事務局の最初の仕事としてEメールとFAXの普及率調査があります。Eメール通信は梶原先生と谷村先生を中心に行なう予定です。「女性会



議長に推薦された谷村志厚先生

議」は高津先生、テストは進研と連携することになっております。

広報（紙）担当は加藤先生です。

**長江先生** 「私塾ネットセンター予算案」が資料の最後にあります。「収入の部」では新規会員を控え目にして計算しております。支出の部も各部の出費を出来るだけ抑え、予備費を多く取っています。これから先何が起こるか分かりませんので出来るだけ財産を残していくたいとの考え方からです。ご承認戴ければ幸いです。（拍手多数で承認）

**谷村先生** ありがとうございました。これですべての御承認を戴きましたので最後に新理事長山口先生にご挨拶をお願いしたいと思います。山口先生、お願い致します。

**山口先生** 「私塾ネット」の規約、エリア規定、役員、事業計画、予算案が承認されましたので、ここに『私塾ネット』が誕生致しました。組織としての『私塾ネット』はもちろんございますが、会員一人一人が動くのだ、仕事をするのだという心意気が大切だと思います。塾にとって厳しい環境が続きますが、業界から期待もされているのではないか。質的に高いものを目指し、子どもたちに返していかなければいけないと思います。ルールを守り、人から何かをやってもらうのを待っていたのではいけないと思います。皆さんにおやりになり、組織はそれをお助けする。公教育の問題がありますが、教育は塾がするのだというつもりで必死になってやって戴きたい。保護者から信頼され社



挨拶をされる安藤進理先生

会から評価されれば、塾の存在理由になるのではないか。塾の課題として次の四つを考えています。

①学習内容3割削減による学力低下にたいして塾の独自性を発揮する。

②週休5日制による非行化の問題も考えられます。勉強しない→遊ぶ→非行という図式です。土日の使い方を塾としてどうするのかという問題。子どもの生活の中に塾も入っていかなければいけないのでは？

③「総合学習」に対して無視するのか、それとも塾もするのか。

④成績評価をどうするのか。

色々塾としての立場を明確にしないといけないと思います。手をとりあって頑張っていこうではありませんか。

**河浜先生** このあと第1回の「代表者会議」がございますので、委員の先生方は3階の「やまぼうし」にお集まりください。

発足式典の開会は3時30分からでございます。

これにて『私塾ネット』の設立総会を閉会とさせて戴きます。ありがとうございます。

## 発足式典

平成13年6月3日午後3時30分より、同じく15階「京都」の間において、『私塾ネット』発足式典が行われた。



規約について説明される田中敏勝先生

司会は「AIM学習セミナー」谷村志厚先生

**谷村先生** 只今より『私塾ネット』発足式典を執り行います。ほんの30分ほど前に産声を上げました『私塾ネット』初代理事長山口恭弘よりご挨拶申し上げます。山口理事長お願い致します。

**山口先生** 山口でございます。本日午後2時40分、『私塾ネット』が誕生致しました。この前の時間に第1回の「代表者会議」が開かれ、この式典が2回目の活動ということになります。

新しい組織が立ち上がったわけですが、古い物をすべて捨てていいというものではありません。「残す物」「新しくしていく物」「形を変えていく物」をきちんと識別して、新しいものを作っていくなければいけない。新しい組織を作ったのだから、今までの関係はない、だなんて言わないで戴きたい。今まで以上のおつきあいをお願いしたいと思います。同じ仲間として力を合わせてやって戴きたいと思います。今日は私たち『私塾ネット』の式典において戴きましてありがとうございます。

**谷村先生** 次に佐藤事務局長より、設立総会の報告、教育ネット要覧の紹介と御礼を申し述べさせて戴きます。

**佐藤先生** 佐藤です。本日は全国から『私塾ネット』の発足式に多数お集まり戴き、ありがとうございました。本日2時よりこの会場におきまして設立総会、引き続きまして「第1回の代表者会議」を経まして、『私塾ネット』が誕生いたしましたこと



役員候補、13年度事業計画案等について説明される佐藤勇治先生

をご報告申し上げます。

塾にとって非常に厳しい環境でございますが、全国の塾が手を携えていかなければならないと思います。21世紀に向けての名簿作りを手始めに行いました。今まで全塾連の要覧がありましたら、1つの団体に偏りすぎた内容でしたので、全国の団体に呼びかけましたところ、全国主要私塾の52団体(179塾)が役員名簿を出してくださり、また、全国主要31私塾団体(1279塾)が会員名簿を出してくださいました。その他、全国都道府県私立中学高等学校961校、全国教育関連企業138社の名簿を合わせて掲載しております。当『私塾ネット』の会員名簿はお渡ししております「教育ネット要覧」の19頁から28頁に掲載しております。名簿だけでなく、私塾・私学・教育関連企業の2001年度行事日程や私塾関連資料、主要官庁、私立学校、文部科学省、教育関連機関、報道の連絡先等資料も載せてありますので、利用価値はかなりあると思います。内容は毎年更新するとともにより充実した名簿とするための資料収集等にも努めたいと思っております。

なお、『私塾ネット』の会員は19頁から28頁までに掲載されております。内訳は北海道15、東北4、関東71、中部13、近畿4、中国19、四国8、九州8そして名誉会員14名の156名で発足しました。先程の設立総会では『私塾ネット』の規約とエリア規定、全国のエリア代表とセンター役員、13年度事業計画、13年度予算



予算案について説明される長江勝 先生

案が承認されまして、無事『私塾ネット』が設立されましたことをご報告申し上げます。なお、表紙の一番下の協力のところで「千葉県私立中学高等学校協会」となるべきところを「埼玉県私立中学高等学校」となっております。お詫びするとともに、訂正をお願いします。

**谷村先生** 新団体『私塾ネット』が今までの団体とどう違うのか、その点につきまして、設立準備委員の中で中心的役割を果たしました研修部長の田中先生からご紹介をさせて戴きたいと思います。

**田中先生** 研修部の田中です。規約に基づきまして『私塾ネット』の性格を話していきたいと思います。

第2章の「目的と事業」に書いてあります通りでございますが、今までの組織との大きな違いはネット網を利用したコンテンツの提供、ネットワークを使ったコミュニケーションのあり方を、または広報のあり方をチェックしていくことです。すでにメーリングリストというものを使ってやりとりをしております。また、FAXの同時配信も行います。行政当局はもちろんのこと、私学や教育関連企業、認可団体や他の任意団体とも連携を深めていきたい。

第2章の5条(6)のボランティア等の公益事業の支援、紹介を通して子どもたちの心を豊かにするお手伝いもやっていきたい。

次に組織の問題ですが、従来のような本部と地方という考え方ではなく、セン



挨拶される山口恭弘理事長

ターは各エリアの活動をサポートする役目に徹し、活動の中心はあくまでも地方の各エリアだということです。ですから研修なども各エリアで企画、実行して戴くということです。

さて、センターの役員の紹介をさせて戴きたいと思います。名前をお呼び致しますので、前の方においでください。

事務局長の佐藤勇治先生、ネット管理部長・副理事長の梶原賢治先生、広報部長・副理事長の加藤 実先生、会計部長の長江勝秋先生、そして最後になりましたが、研修部を担当します田中敏勝と申します。そちらで司会をされております谷村志厚先生、副理事長・総務・厚生・涉外を担当されます。エリアの先生方は後ほど紹介する時間がございますので、そちらの方で紹介したいと思います。また今回の発足式の準備等をきりもりしてくださいました鈴木正之先生です。

**谷村先生** ここでご祝辞を頂戴したいと思います。社団法人全国学習塾協会の石井正純先生にお願いしたいと思います。

**石井先生** 学習塾を代表いたしまして、心からお祝いを申し上げたい。地域社会の中で出来ることと、団体の動きとして出来ることと2つの大きな流れがあると思います。2002年の問題あるいは週休2日制の問題等色々ある中で、平成7年に文部省が学習塾を認めたといいながら、過度の学習塾通いを自制するようにかなり厳しく言われ、新たな土曜日の展開について厳しい言葉がありました。しかし、いよいよ



ネット管理部長 梶原賢治先生

2002年から地域の教育資源という立場からきっちりとした役割が回ってきたと思う。公益のための社団と塾のための任意団体、この2本の柱でしっかりとやっていきたい。本日はおめでとうございます。

**谷村先生** 塾全協東日本ブロックの新理事長であります増田泰雄先生にご挨拶をお願いします。

**増田先生** 塾団体にはそれぞれの設立理念があるわけでございますが、ここに至りまして全塾連・PTF（全日本私塾協会）・日私会の任意3団体が一緒になりまして、『私塾ネット』を作ったわけでございます。これからも私塾ネット・私塾協議会・塾全協の3団体で任意団体連絡会をやっていこうとの山口理事長のお言葉に感謝しております。これからもよろしくお願いしたいと思います。本日はまことにおめでとうございます。

**谷村先生** この後『私塾ネットエリア』の紹介をさせて戴きます。

**河浜先生** それでは『私塾ネットエリア』の方のご紹介をさせて戴きたいと思いますが、新団体は地方の力を大いに活用していくということで、関東も一つのエリアとして横並びの関係で、地域毎の活動を活発化していくということでございます。それぞれのエリアの代表をご紹介致します。本来ですと「北海道エリア」の入江先生にご登壇して戴くのですが、今回は欠席ということで、「私塾ネット東北」の関先生、「私塾ネット関東」の谷村先生、「私塾ネット中部」の松本先生、「私



広報部長 加藤実先生

塾ネット近畿」の玉寄先生、「私塾ネット中国」の北川先生、「私塾ネット四国」の湯口先生の各先生方です。後「北九州」と「南九州」がありますが、今日はご欠席ということですので、お名前だけご紹介させて戴きます。「私塾ネット北九州」は藤岡先生、「私塾ネット南九州」は谷口先生が代表でございます。そして私塾ネットセンターの山口先生です。

**河浜先生** これより「私塾ネット宣言」を読ませて戴きます。皆さん、後を付いて言ってください。

(宣言唱和)

このあと4時30分より橋本先生の記念講演があります。それまでの間、コーヒーブレークとさせて戴きます。

(エレクトーン演奏)

## 記念講演

### 講演者プロフィール

**橋本ヒロ子氏** (十文字学園女子大学社会情報学部教授)

カリフォルニア大学バークレー校情報図書館学修士課程修了。国立婦人教育会館情報交流課長、国連アジア太平洋経済社会委員会を経て平成12年より現職。女性2000年国連特別総会日本政府代表団顧問、国立女性教育会館監事等女性学専門の立場から活発に社会活動を行っている。最近の共著に「21世紀の女性政策と男女共同参画社会基本法」2000年5月、「男女共同参画条例の作り方」2001年5月など。



挨拶をされる石井正純先生

最近では地域で女性たちが元気に活動しておりますが、この女性たちは第4回「世界女性会議」（北京で開催）に出席して感動した女性たちで、日本に帰ってすぐに実践的に活動しているというわけです。

市川房枝先生を中心に作られたNGO（非政府間組織）が現在51ほどあります。去年の12月の新聞に「日本の子どもたちは世界で最たる勉強嫌いであり、学力の低下も起きている」との報道がありました。私の大学でも進路を早く見極める必要があることから、就職試験対策としてS P Iを実施しておりますが、塩分濃度の計算が出来ないなど基礎学力が確実に低下してきております。従来でしたらこんなことは考えられなかったことです。大学生が塩分濃度の計算が出来ないんですから。しかし、文部省はそのことを認識しておりません。

今度の教育改革にしても「教育のスリム化」などと言っておりますが、「必要なないものを落とす」のがスリム化であって、必要なものを落とすことをスリム化とはいいません。ミニマム化（最低限の学習）ということでしょう。副読本を使って指導したらしいということなのでしょうが、学校の先生が個別のニーズに応えられるのかどうか。

教員というのはちょっと浮世離れしているところがございまして、「期限を守らない」とか「業績を上げなくてもよい。なぜなら首になることはないから」などと呑気に構えている。一般企業では期限を守らなければ仕事を失うし、社員は首になる。結果を出さなければもちろん評価されない。結果としての給料ダウン、場合によっては首になってしまいます。まず、大学が変わらなければいけない。

私は課題を学生にたくさん出すのですが、評判はあまり良くない。板書もあまりしないのですが黒板の文字を写すことになった学生が多いせいか私の話



挨拶をされる増田泰雄先生

のメモを取れない学生が多い。板書しないと書けないんですね。自分たちで判断出来ない。画一化教育の結果なのではないか。

教育の評価に関しても問題。病気等で体育を休めば評価は5段階の1。タイの学校では3。なぜ休みが多いのに3なのかというと、一所懸命にやっているからだと。反対に真面目にやらない子はたとえ国体レベルの子であっても評価は3。タイなんかではそうでした。日本は違いますね。絵を書くということに対してもそうですね。ゆっくり書く子の評価は良くない。

少人数制の教育も遅々として進まない。日本は教育にお金をかけないんです。私立大学なんかはお金をかけてメンテナンスをしっかりやり、設備も整えていますよね。国立大学なんかで荒れ放題のところがあります。

先進国の中で日本は意外にも進学率が低いんです。それにIT化も立ち遅れています。公務員の数も多くはないんです。それでも定員減が進んでいます。すると兵隊から切られていく。どうなるか？限られた人員の中で仕事をするから一人の負担が増える。サービスも低下する。過労死した職員もいたぐらいです。

女性の立場で言いますと、女性にはもっともっと社会に出て、そして活躍して欲しいですね。少子化で女性も労働力として使わないとやっていけなくなるという理由もあるんでしょうが、どんな理由であってももっと社会に出ていかないといけない。

ネットワーク化の推進というのはとてもいいのですが、責任をもって自主的にやっていける人をメンバーにしていかないとそのネットワークの信用がなくなります。多くのメンバーを有すると同時に質の確保も極めて重要なのです。



記念講演をされる橋本ヒロ子先生

NGO51団体の会員は3000万人います。この数の力が大きいのです。また、行政を動かすには無党派の政治家を送り込む必要があります。

時間がなくなりました。パイロット的なことは公教育には出来ません。21世紀の教育を決めていくのは塾だと思います。私学・私塾ともども頑張って欲しいと思います。ありがとうございました。

\*橋本先生のお話で「日本の進学率は高くない」という報告は意外であった。高校にはほとんど全員が進学し、事実上の義務教育化しているし、大学生が巣に溢れているというのにである。先進国でのお話であると思うのであるが、それにしても意外である。国名・進学率などを示して説明して欲しかった。(別刷りの資料でも良かったのであるが)

「学力の低下」や「IT化」の遅れに関しては事実であると思うのであるが、この点に関しても、アメリカ・イギリス・フランス各国とわが国との教育システムの共通点と相違点、および「学力低下」を示す客観的なデータを示して欲しかった。

アメリカの大学は入りやすいようであるが、しかし、卒業が簡単には出来ないと聞くし、SAT(大学受験資格試験)のようなシステムもあるという。日本のように受験科目数を減らし、学校の成績や小論文や一芸で大学に入学できてしまい、しかも留年もほとんどなく、どんどん卒業させて低学力の学士様を輩出している国とは違うのだということをもっと力説して欲しかった。さらにこんどの教育改革(教育改悪ではないか)である。改革を重ねる毎に学力は低下し、子どもたちの学習意欲はなくなり、信じられないような事件が続発している。教育が子どもたちに夢と希望を与えていないからなのではないか。「東大を出たってたかがしれている」とか「一流の大学を出たってこの程度」とか言われ続けていたの



懇親会で司会をされた仲野十和田先生(左から4番目)

では、誰が眞面目に勉強しようか。夢も希望もないではないか。もっともっと突っ込んだお話をしたいと思った。

## 私塾ネット発足式・懇親会

報告者 監物一男

午後6時より懇親会開催される。

200名が参加し、盛大に開かれました。

(司会は、仲野十和田先生)

### ■開会の挨拶(山口理事長)

皆さん今晩は。本当に皆様方の拍手を頂きまして、新しい団体の為にも、業界の為にもこれから頑張っていきたいと思っております。本当にたくさんの方においで頂きまして心からお礼申し上げます。私塾ネットワークが結成されました。これは実は3つの団体を解散致しまして、新しく作ったということなんですが、何か申し訳ないなあというのと詮めてもらいたいなあいうのと2つありますが、合併とかという形になると、よく吸収されるとか変なことを言われることがあります。今の場合、皆さん解散するということにおいて、参加される方は全部平等な立場で新しい団体に参加できるということに意味があるんです。それからもう1つ、有能な人材が各団体に居られて、3つ同じ事をやっていたんでは効率が悪いということがあります、それが合わさることによって3人になりますが、こういう場合、3人の2乗で9人分働くんじゃないかなと思っています。これから日本の子供達の為にも日本の教育の為にも、頑張っていきたいと思います。新しい時代に入って変わらなければならない事が多くあると思い



挨拶をされる酒井 先生

ます。変化に対応しなければならないのですが、前の会でも話しましたけど、変えてはいけないこともたくさんあると思います。その1つで、友好団体の方々・私学の先生方・関連業者の方々。是非、今まで以上のお付き合いをさせて戴きたいと思いますので、宜しくお願ひ致します。今日は、ありがとうございます。

#### ■設立総会報告・教育ネット要覧の紹介と御礼（佐藤先生）

皆さん今晩は。本日はお休みのところ、私塾ネットに200名近い多数の方がお出かけいただきまして、本当にありがとうございました。私塾ネットは、本日、午後2時より設立総会を、3時30分より式典を行い、無事、船出をしたところでございます。只今講演の中でネットはいくらでも広がるんだとの力強いお話を戴きまして、心強く思っている次第です。きょうは、記念品として、全日本学習塾連絡会議から発刊した教育ネット要覧を入れてありますので、ご利用戴ければと思っております。たまたま私が編集しておりますので、この場をお借りて教育ネット要覧の話をさせていただきたいと思います。昭和56年に全塾連の名簿を担当し、塾と中・高校約5000校を一覧表にまとめ、それ以降名簿は私がやっております。平成2年全塾連30周年記念誌、昨年全塾連40周年記念式典を迎えた時には6団体の会員名簿と40団体の役員名簿を全塾連要覧に収録し、発行いたしました。また、一昨年、教育改革という事で、文部省に塾がまとまって抗議に行こうと生まれたのが「全日本全国学習塾連絡会議」です。その時に全国の団体の方に参加していただき、文部省と計4回の会合を開きました。名簿は、昨年から準備し、全国の52団体の会員塾1,458塾と官公庁・報道機関の名



挨拶をされる進研原田社長

簿を入れると合計3,208件を収録し、塾業界はじめての全国統一名簿を発行することができました。最初のページに私学・私塾・企業の今年の行事予定なども載せてありますので、有効にご利用いただければと思います。又、今回320万円の净財を戴き、300ページにもわたる本誌を作る事ができましたこととお骨折り頂きました先生方へ御礼を述べますと共に、600時間以上の時間を費やして最善を尽くしましたことに免じて行き届きの点をご容赦いただければ幸いです。

#### 祝辞

##### ■私学代表 東京私立中高協会会长（酒井先生）

皆様ご機嫌いかがでございましょうか。私塾ネットの発足、大変おめでとうございます。只今お聞きましたところによると、3つの団体が発展的に解消して、そして再構築をして、文殊の知恵で、3人ばかりでなくスーパー文殊というんでしょうか、その知恵を出してということでございます。ところで、私共は、「生きる」ということについていろいろ申します。ある方は、「地球より重いんだ」と言われたことがございますが、この会も「生きていかなければならない」と思うんですね。私共私学もそうですし、どの団体もそうだと思うんですけど。そこで、「生きる」ということについて、基本的な事ですが考えてみると、おそらく「命があるから」と言いますね。「命って何だろう」と言いますと、誰も答えて下さらないんですね。誰か教えていただけるでしょうか。「生きるための知恵だ」と言う人がいるんですね。私、尤もだと思うんですね。考えなくてはいけない。私塾ネットは、「考える組織」であると思っているんですが、如何でしょうか。（拍手）私共にも下々までお授け頂ければ幸いで



乾杯の音頭をとる森貞孝全国学習塾協同組合理事長

ございます。今後ますますのご発展をお祝い致しまして、お祝いの言葉とさせて頂きます。どうもありがとうございました。

#### ■企業代表一進学研究会（原田社長）

皆さん今晚は。私共のようなものがこのような席で業界代表で挨拶ということですが、まだ小さい会社でございます。私塾ネット、このような大きな団体がいつの日か日本に生まれるに違いない。皆さんそのように思っていたのではないでしょうか。その為には、たくさんの事を犠牲にしなければならなかっただと思います。その勇気を以って、先程酒井先生からもお話があったように、発展的にこの組織を作られました関係各位の先生方に、心から敬意を表したいと思います。私共もネットワーク作りということで、ホームページをやり始めています。おそらく、私塾ネットの皆様もいろいろな経験を積んでこの構築に至られた事だと思いますけど、実はそのネットワークを維持する事、メンテナンスをすること、コンテンツを良いものにすることがいかに大変なことかご存知ないまま、ここに至ったのではないかと思った次第です。しかし、このように設立されましたからには、是非、それを素晴らしい物に上げて頂き、私塾全体のために、そして教育界全体のためにも是非お力を発揮していただきたいと思います。本日は、大変おめでとうございます。

#### ■学習塾諸団体の代表者の紹介

##### ★A J C理事長（森先生）のあいさつで乾杯

はなはだ僭越ですが、一言ご挨拶をさせていただきます。私、もう何十年も全塾連さん・全日本私塾協会さん・日本私塾会さんと本当に親しいお付き合いをさせていただきました。その3団体が解消し、私



エレクトーン演奏中の富田友里恵さん

塾ネットとしてスタートするに至ったことは、私にとっては、大変驚きでありました。今、お話をありましたように、発展解消して更に大きな知恵をだしていく。それ自体は、良く分かる事なのですが、それぞれが長い歴史を刻んで、多くの先生方の繋がりがあって、それがこういう形で一つまとまることになったということは、本当に20世紀から21世紀に変わったという時代の変革と共に、塾の業界にも新しい風が吹き始めたなと思いました。又、名前がネットワークという今風の言葉で、お互い緩やかな連合体を作っていくという感じになりました。時代の流れを表していると同時に、塾の世界にもネットワークを構築して、先程の話のように、良いコンテンツをいっぱい詰め込んで、民間の教育機関として、我々はこうやって頑張っているんだということを、社会に発信していくだけの力が欲しいと思います。そういう意味で、今回のこの私塾ネットの設立は私にとって嬉しい事ですし、大いに頑張って頂きたいと思います。21世紀に成りました。西洋の諺に、「新しい皮袋に、新しい酒を」という言葉がございます。本日、塾業界にも、新しい団体が誕生したことを共に喜びたいとおもいます。本日は、おめでとうございます。

\*（乾杯）

\*（しばらく懇談）

#### ■出席会員紹介—代表あいさつ

##### ①四国代表の湯口先生

地域のためにも四国も頑張りますので宜しくお願ひします。

##### ②栄光プレッブスクール北川先生

私塾ネット。バイタリティ良し・スペシャリティ良し・オリジナリティ良し・パーソナリティあふれ

るV S O Pが揃っています。しっかり頑張りますので宜しくお願ひします。

#### ③中部代表の松本先生

理事長をはじめ、地方の皆様方をしっかり支え、しっかり頑張りますので宜しくお願ひします。

#### ④近畿代表の玉寄先生

皆様近畿代表として一生懸命汗を流したいと思います。宜しくお願ひします

#### ⑤関東代表の谷村先生

21世紀に入り、いろいろな物が変わっております。我々の業界サイドも大きく変わろうとしています。是非とも皆様方のご協力を得て、全国に日本の教育ネットを張っていきたいと思いますので、皆様宜しくお願ひします。

#### \*名誉会員紹介—代表あいさつ

##### ■落合先生

お互いの顔を確認していませんが、見覚えのある顔ばかりでございます。今後とも我々がバックアップ致しますので、宜しくお願ひします。

#### \*顧問の会員紹介—代表あいさつ

##### ■安藤先生

今晚は。せっかくの日曜日に企業の方々、私学の方々、業界の方々にお集まりいただきまして、誠にありがとうございました。21世紀に入り、塾が子供達に夢を与え、日本の国を背負っていきたいと思います。どうか皆様のご指導ご鞭撻をお願い致します。頑張りましょう。

#### \*相談役の会員紹介—代表あいさつ

##### ■平林先生

皆さん今晚は。私塾ネットは、平成10年から山口先生に申し入れをして、発足致しました。まだ私塾ネットの中身はございません。これから作っていきたいと思っておりますので、宜しくお願ひ致します。ありがとうございました。

(しばらく懇談)

#### ★富田さんのエレクトーン演奏

オリジナル曲など素晴らしい演奏。

#### ●出席私学紹介（桂馬先生）

#### ●出席企業紹介（高津先生）

(しばらく懇談)

#### ■実行委員長の謝辞（谷村先生）

今日は、200名の方々にお集まりいただきました。

「新しい皮袋に、新しい酒を」とのお話がありました。まさにその通りで、問題は、新しい皮袋に入るべき酒が美味いか不味いかでありまして、その為には少しお時間を戴きまして、新しい知恵を集めて、新酒を仕込んでいきたい思っております。その酒が美味しいくなるかは、皆様の応援、我々メンバーの力しだいであると思っております。新しい団体＝私塾ネットを宜しくお願ひ致します。

#### ■閉会のあいさつ（副理事長梶原先生）

私学の先生方・塾の先生方・関連の業者の方々、今日は、本当にありがとうございました。新しい組織の名前がネットワークになりました。私が私塾で楽しみにやっている事を紹介させていただいて、挨拶に代えさせていただきます。この4月から私塾で365日ボキャブラリーということで、四字熟語と英検5級から準2級までを、今日まで60日間連続で、コミュニケーションツールとして携帯を使っている。携帯は良い方向に使えるし、悪い方向にも使える。先程、酒が美味いか不味いかというお話もありました。これからもご指導ご鞭撻を戴きまして、良いコンテンツを子供と・地域と・ご父母に流す事が出来ればこのネットを設立した意味があると思っております。皆様方のご協力をこれからもお願ひして閉会の挨拶とさせていただきます。

### エリア代表の声①

#### 「私塾ネット東北」代表 関志郎先生

青森では、近年になく非常に雨の少ない梅雨となりましたが、気温の方は梅雨冷えとでも言うのか、低温注意報が何日も続いておりました。北東北、特に青森県の梅雨は今年に限り空梅雨のようです。（憶測です。）

それがここ2・3日はいきなり25℃前後の暑い日が続いています。

考えてみると、入梅の知らせも梅雨明けの宣言も判然としないままに、今日に至っているような気がします。

自分が梅雨入り宣言を見落としたか聞き漏らしたのだとは思うのですが、情報は流れても、その情報を取得しようと言う姿勢なり気持ちがないと、何気ないことではあるのですが、結構肝心なことも見落としがちになることを実感しております。

そのような私をあざ笑うかのような、初夏の暑さ

に辟易している今日この頃です。

塾ネットが発足し、地方では何をすればよいのか、何ができるのかをエリアの面々と相談しなければならないのに、やはり日々の業務に追われて何もせぬままに夏休みを迎えるようとしています。

情報は発信しなければ受信できないという大原則を忘れていたような気がします。

そんな時に、加藤広報部長より目覚めのファックスが舞い込み、定期試験対策・夏期講習の準備等々で追いまくられている私に、「原稿送れ」の恐怖のメッセージでした。

何で北からなのか、何でこの時期なのかと文句の1つも言いたいところですが、送られてくる原稿を校正し、編集する加藤先生の苦労を考えると書くしかないと、いいえ、書かせていただきたいと言わざるを得ないようです。前置きが長くなり申し訳ございません。

簡単に、関教育学舎の紹介をさせていただきます。

人口4万5千人、青森県むつ市に昭和56年3月開設いたしました。英語の単科塾で無学年無時間制の個別対応形式でスタートしました。

現在は、総合学習塾として、小学生から高校生まで全科目を指導しています。一方で、パソコン教室とサポート校を開設しています。

現実問題として、間口を広くしなければ経営的に成り立たない、と言う厳しい現実のなかで何とか看板を上げておりますが、先行きは真っ暗闇です。

不景気という外的要因が、元々所得の低い地域に開業している小塾には、非常に重く影響しております。塾生は最盛期の半分に落ち込み悪戦苦闘しているのが現実です。5年前に始めたパソコン教室部門が採算ベースに乗り始め、国や県或いは市のIT関連の事業を受託することができるようになったことで何とか息している所です。

講師の造反等の内的トラブルから漸く立ち直りかけてはいるのですが、外的マイナス要因の研究と、教務力の強化等の内的部分も今まで以上に努力していきたいと考えています。

2002年問題に関する私見をとのことでしたが、弱小の塾にとってはあくまで外的要因の1つとしか言えないような気がします。

高名な先生方が声高に言えばその問題が消えるのならば、或いは変わるのであれば騒いでいただいて結構ですが、そうなるとは思えない以上、私としては、批評・批判するより対策というか、我々塾側の

対応策を、アイディアをもっともっと前向きに検討し、知恵を出し合い、子ども達のために塾が何ができるのかをアピールすべきだと考えています。

コミュニティーという言葉を耳にすることが多くなりました。

IT関連事業で、市の教育委員会と話し合いが開かれた時に「教育委員会としては今後とも塾（民間事業者）と協力していきたいので宜しく」と言われました。今までの教育委員会の態度からは考えられないような言葉でした。

前述した2点から、省庁間の問題を含め、行政改革或いは産業構造改革などの大きな視点から塾はどう変わるべきかの情報収集の必要性と、各塾がその当該地域に於いて何が求められているかを把握し、行政を含む社会や地域が求めている「生涯教育の場」「コミュニティー」に変身していくかなければ、旧態然とした学習塾では、将来が無いのではないかという考え方で2002年問題を捉えています。

## 『私塾ネット関東』

### 第1回総会&研修会

平成13年7月5日(木)午前10時より午後1時まで神田駿河台の中央大学駿河台記念館において『私塾ネット関東』の第1回総会および研修会が開催された。

〔司会〕 谷村志厚私塾ネット関東代表

〔進行〕 仲野十和田事務局長

山口恭弘私塾ネットセンター理事長挨拶に引き続き仲野事務局長より出席26名、委任状26名、現在の会員数86名の過半数に達しているので、本日の総会が成立する旨の報告があった。

次に私塾ネット関東の規程（案）について、田中敏勝研修＆テスト部長より説明があり、賛成多数により規程が承認された。

13年度事業計画案が谷村志厚代表より説明があり、賛成多数で承認された。

13年度予算案について竹内康信会計部長より説明があり、その後賛成多数で承認された。

役員候補について候補者一人一人が抱負を述べた後採決が行われ、賛成多数で承認された。任期は1年。

役員については以下の通り。

代表 谷村志厚（松戸市）  
 副代表・ネット管理部長 梶原賢治（川口市）  
 副代表 加藤 実（荒川区）  
 副代表 鈴木正之（品川区）  
 事務局長 仲野十和田（板橋区）  
 会計部 竹内康信（墨田区）  
 ネット管理部 塩谷康則（熊谷市）  
 ネット管理部 矢澤由雅（川口市）  
 ネット管理部 西畠 功（厚木市）  
 研修・テスト部長 田中敏勝（さいたま市）  
 研修・テスト部 立脇 兜（岩槻市）  
 研修・テスト部 高津友理子（青梅市）  
 研修・テスト部 菅谷友豊香（宇都宮市）  
 渉外・厚生部長 佐藤勇治（調布市）  
 渉外・厚生部 馬場正彦（小平市）  
 進学情報部長 桂馬辰尚（足立区）  
 進学情報部 千葉秀一（茨城県）  
 進学情報部 監物一男（さいたま市）  
 監事 川久保博史（墨田区）  
 監事 平林 治（足立区） 敬称略

抱負を述べた後、挙手による採決。賛成多数により承認された。

以上で第1回の私塾ネット関東の総会が無事終了した。

進学研究会の原田社長、鈴木営業本部長により、「全国統一テスト」についてのお話があった。

用紙+処理代のテスト料金は従来型3科1,000円（標準価格1,500円）、5科1,100円（同1,650円）。またインターネットを使ったJUTXAは3科900円（同1,190円）、5科1,000円（同1,340円）と格安。私塾ネット会員だけの特別価格である。また、JUTXAを利用する場合必要な基本登録料41,800円は不要。これも私塾ネット会員だけの特典である。このJUTXAは塾内パソコンとプリンターで成績処理を即時に行い、帳票を直ちに出力するという画期的なもの。答案の行ったりきたりがないので圧倒的な速さが壳り。やりた~い。しかし、パソコンあっても3,1でインターネットにも繋がっていないので、使えない。困った。

ある先生から「どのような経緯で役員候補が決まったのか。自薦、他薦を含めてなのか。そのへんのところを伺いたい」との質問があった。それに対して佐藤勇治事務局長が「私塾ネットを立ち上げるまでに何回も会合を重ねてきているわけですが、基本的にはその会合に毎回出席して下さった先生、お

よりその先生の推薦で候補の先生が上がりました。本日が第1回の総会ですが、規程作りやらネット・コンテンツ整備やらパンフ作りやらとかなりの仕事をしてきたわけですが、そういう仕事を実際にやってくださった先生方、つまり仕事の出来る先生ということもあると思います。しかし、あくまでこれは候補ですから、特に問題があるということでしたら、お話し下さい。」と話されました。的を射た回答であったと思う。その先生も納得されたようであった。

次に次の先生方の自己紹介があった。

小高禮二（葛飾）・服部博文（川崎）・田中宏道（千葉鎌ヶ谷）・清水武夫（さいたま市）・安藤進理（杉並）・長江勝秋（川崎）

\*Eメールの現状が報告されたが、現在Eメールアドレスを登録している先生方は27名とのことで、うち関東が23名。86名中の23名ということであるから、普及率27%である。さて、これをどのようにして普及させていくのかが問題なのだ。ネット化を失敗すれば、「私塾ネット」の「ネット」が泣こうというもの。全国でみた場合はもっと深刻な状態で、156名中の27名であるから普及率はたったの18%弱である。諸事情で出来ないでいるわけであるから、また、その必要性を認めていないわけであるから、普及させるのは容易なことではない。各ネット整備委員の腕のみせどころであろう。

同時進行でコンテンツ整備であろう。インターネットでこんな素晴らしいコンテンツをご覧になれますよというわけだ。今、有料・無料入り乱れて様々なコンテンツがあるようであるが、さて、私塾ネットの先生が感激するようなコンテンツを配信できるのかどうか？各塾のノウハウをどこまで開示出来るのか、まずはネット整備委員の先生から開示あれ。範を示せば続く先生もいよう。

田中敏勝先生のお話だと、パソコンの初期設定が大変だとか。私もパソコン通信をやろうと思ったのであるが、打ち込む内容が多すぎて、結局止めた経緯もある。また、多忙でパソコンの前に座る時間がなかなか取れないということもある。まあ、何百人、何千人と塾生のいる塾ならいざ知らず、百人以下の塾で省力化と言ってもたかがしれているわけで、その辺をどう説得していくかだ。金もかかるし、手間もかかる。余程気合を入れてからないと、まず普及しない。

次回の会合は9月23日の予定。

# センター事務局 NEWS

事務局長 佐藤勇治

## 1. 新生私塾ネット誕生

全国私塾連盟(全塾連)、全日本私塾協会(PTF)、日本私塾会(日私会)の3団体は2年間の準備期間を経て、平成13年6月3日(日)午後2時より全日本私塾教育ネットワークの設立総会を品川プリンスホテル15F「京都」において開催いたしました。

設立総会は河浜一也先生の司会進行で下記の議案の説明が行われ、全て満場一致で承認され、新生私塾ネットが誕生しました。

- (1) 私塾ネット規約案(田中敏勝)
- (2) 役員候補者・平成13年度事業計画案  
(佐藤勇治)
- (3) 平成13年度予算案(長江勝秋)

## 2. 私塾ネット発足式典

午後3時30分より同会場において谷村志厚先生の司会進行により誕生したばかりの全日本私塾教育ネットワークの発足式典が行われました。

### 第1部 式典次第

- ・ご挨拶: 理事長 山口恭弘
- ・私塾ネット設立総会報告:  
事務局長 佐藤勇治
- ・私塾ネット紹介:  
研修部長 田中敏勝
- ・私塾ネットエリア紹介: 各エリア代表
- ・来賓祝辞: (社)全国学習塾協会  
会長 石井正純

### 第2部 記念講演

「21世紀の民間教育のあるべき姿—私塾の役割と展望」

講師: 橋本ヒロ子・十文字学園女子大学社会情報学部教授

## 3. 教育関係者懇親会

午後6時より会場を12F「彦根」に移し、仲野十和田先生の司会進行で懇親会が行われました。

- ・開会挨拶: 理事長 山口恭弘
- ・『教育ネット要覧』完成報告:  
事務局長 佐藤勇治
- ・ご来賓挨拶:  
東京私立中学高等学校協会  
会長 酒井 淳  
(株)進学研究会社長 原田中道
- ・乾杯:  
全国学習塾協同組合  
理事長 森貞孝
- ・私塾ネット会員紹介
- ・エレクトーン・ミニコンサート  
奏者 富田友理恵
- ・謝辞:  
実行委員長 谷村志厚
- ・閉会挨拶:  
副理事長 梶原賢治

懇親会には私立学校の校長先生、教頭先生、広報室長の先生方82名、教育関連企業の方21名、報道関係3名のほか学習塾関係者94名の合計200名が出席、盛会裡に終了致しました。

## 4. 新入会員、新入協賛会員ご紹介

6月3日(日)の発足式典当日、私たちの門出を祝すかのように早速お2人の新入会員があり、懇親会の席で紹介されました。

- ・新入会員
- ◎塾名 エコール・ヴォアラ  
代表者名 菅谷友豊香  
〒320-0026

栃木県宇都宮市馬場通り4-4-11  
 TEL:028-627-2581 FAX:028-627-2582  
 Eメール: hellomamy@docomo.ne.jp

◎塾名 日能進学教室  
 代表者名 田中宏道  
 〒273-0137  
 千葉県鎌ヶ谷市道野辺本庁1-2-3-304  
 TEL:047-446-1147 FAX:047-446-5927  
 Eメール: hiromichi@amy.hi-ho.ne.jp

私塾ネットセンター事務局に私立学校3校より年間協賛会員のお申込みがありましたので、ご紹介致します。

◎校名 関東国際高等学校  
 ご担当者名 村山サンドー  
 (入試進路対策主任)  
 〒151-0071  
 東京都渋谷区本町3-2-2  
 TEL:03-3376-2244  
 FAX:03-3376-5386  
 Eメール: smurayam@s.kantokoku.ac.jp  
<http://www.kantokokusai.ac.jp>

◎校名 江戸川学園取手中学高等学校  
 ご担当者名 竹澤賢司(中等部教頭)  
 〒302-0025  
 茨城県取手市西1-37-1  
 TEL:0297-74-8771  
 FAX:0297-73-4851  
 Eメール: webmaster@e-t.ed.jp  
<http://www.e-t.ed.jp/>

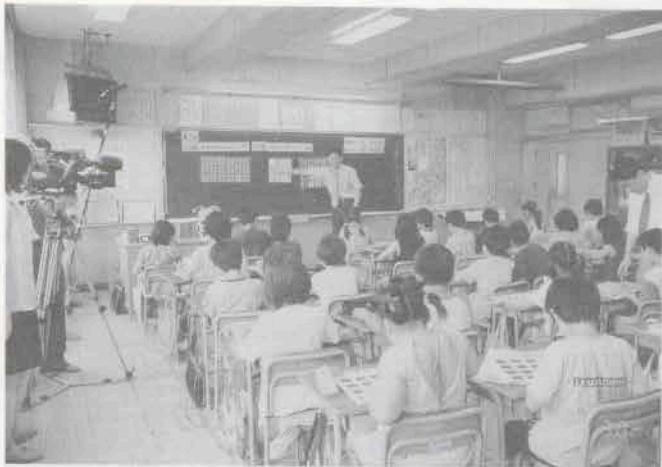
◎校名 十文字中学高等学校  
 ご担当者名 外木幸男  
 (理事長付入試統括部長)  
 〒170-0004  
 東京都豊島区北大塚1-10-33  
 TEL:03-3918-0511  
 FAX:03-3576-8428  
 Eメール: jumonji-n@nifty.com  
<http://www.jumonji-u.ac.jp>



平成13年(2001)6月18日(月)  
 立って質問しておられるのは中村弘道先生(神奈川)、向い側左より右廻りに、谷村、鈴木、森、山口、中村、藤原、松田、下村、寺脇の各氏。文部科学省大臣官房寺脇研氏との懇談会(衆議院第二議員会館)

## 5. センター事務局短信

- 6月3日(日) 私塾ネット創立総会・発足式典・懇親会
- 11日(月) 午前 — 私塾ネット幹部会(新宿、滝沢)  
 午後 — 社団法人全国学習塾協会総会(四谷、主婦会館プラザエフ)
- 12日(火) 経済産業省・商務情報政策局サービス産業課生涯学習振興室長・山田雄吉氏、経済産業事務官・飯島嘉雄氏と懇談(田中敏勝、関志郎、佐藤勇治)
- 13日(水) 文部省大臣官房審議官(生涯学習政策担当)寺脇研氏、下村博文衆議院議員、私塾団体代表者懇談会の打ち合わせ会  
 午前11時~午後2時(新宿、滝沢  
 15名出席)
- 18日(月) 衆議院第2議員会館第2会議室にて寺脇研大臣官房審議官、下村博文衆議院議員、学習塾団体代表者34名と「新しいタイプの学校の提案」ミニユースクール、チャータースクール、フリースクール等の懇談会(午後1時~3時)。  
 午後4時、文部科学省生涯学習政策局生涯学習推進課長・金口恭久氏ほか担当者にNPO全国ボランティア



平成13年(2001)7月11日(水)

NHK(第1チャンネル)朝のテレビ番組「おはよう日本」の中で、教育特集「民の力が学校を変える」が7月11日(水)より3日に亘って放映された。その第1日に登場したのが「塾のプロ教師が公立の小学生を教える。」である。上の録画風景は時間の関係で放映されなかつたのでこの紙面でご紹介したい。厚木ゼミナール・西畠功先生の授業風景

#### の会の活動と私塾ネットの設立を報告

- 24日(日) 全国学習塾協同組合主催、私塾ネット協賛  
「AJCパソコン研修」13:30~19:00(杉並学院中学高等学校)
- 7月4日(水) 塾全協主催・進学相談会実行委員会  
(午前10時)  
任意団体連絡会(午前11時)新宿NSビル13F
- 5日(木) 私塾ネット関東エリア総会、研修会  
(午前10時)  
お茶の水、中央大学駿河台記念館
- 6日(金) 下村博文衆議院議員・教育セミナー  
(12:30~13:50) 参議院議員会館  
1F第1会議室
- 8日(日) NPO全国ボランティアの会の平成13年度定例総会を、午後2時より本部事務所(調布学園)で開催する。
- 15日(日) 七味会(石田治正先生主宰)私学・私塾懇談会が亀有の「鳥孝」総本店で午後6時より開かれる。
- 16日(月) 文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課の担当者、下村博文衆議院議員学習塾関係者の懇談会を開催(憲政会館)

## 編集後記

平成13年6月8日、品川プリンスホテル15階「京都」の間において『私塾ネット』が誕生した。正式名称は『全日本私塾教育ネットワーク』であるが、長いので略称の『私塾ネット』の名で呼ばれることが多くなるであろう。

設立準備委員会の第1回議事録の日付は平成12年6月2日である。南浦和にある『南浦和文化センター』の会議室でPTFから安藤・谷村・立脇・馬場・中村・塩谷の各先生、日私会から梶原・仲野・吉田の各先生、全塾連から落合・佐藤・田中・加藤の各先生が参集した。ほぼ毎月会議を開き、平成13年5月14日の第12回の議事録が最後となっている。最終回の場所は東京駅地下の「八重洲俱楽部」であった。

この12回の設立準備委員会の前に準備委員会を開いて良いかどうかの会議が主として銀座の「新聞会館」で5回行われており、なかなか大変な作業の連続であった。誰が何をやるのか、いつ発足するのか、そしてそこから逆算してタイムスケジュールを作っていくかなければならなかった。設立の目的・組織・役員・会費と話をしていくほど、それぞれの会の性格が浮き出て、調整が難しい場面もあった。

何とかそれを乗り切れたのは、会議に参加した先生方の熱意であろう。昭和40年代から出ては消え、出ては消えていた合併話を、今度こそまとめたいという思いであろう。それぞれの団体の長であった平林先生、梶原先生、そして山口先生の強烈な指導力、それを強力にバックアップした事務局長の谷村先生、仲野先生、佐藤先生、それらの熱意・思い・指導力・後押しがあったればこそこの新組織誕生なのである。

が、問題はこれからだ。ネット整備・コンテンツの充実・各エリアの活性化等々、そして塾を取り巻く環境の厳しさにどう対応していくのかである。

新組織『私塾ネット』の初代広報担当に推举して戴き、身に余る光栄であると思っている。私のような者でも皆さんのお役に立てるのならこんな嬉しいことはない。必死になって仕事をさせて戴く。よろしくご支援ください。

平成13年7月28日午前0時12分 加藤 実